

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 367 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2014.05.23（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の  
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

\*\*\*\*\*発行部数 1067 部\*\*\*\*\*

□ 目次 □-----

<巻頭言>

解釈改憲は絶対に許されない——日本語が信頼性を失う 益永八尋

<山崎農業研究所 第 148 回定例研究会（速報）>

テーマ：新たなアフリカ農業・農村開発支援と課題

日時：2014 年 4 月 26 日（土）13:30～17:00

1. 紛争終了地域のコミュニティ再生と技術支援：

……岩本彰氏（NTC インターナショナル・代表取締役社長）

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.132』発行されました

<巻頭言> 情理を兼ね備えた日本語

——関西電力大飯原発運転差し止め請求訴訟・福井地裁判決に思う

---

<巻頭言> 解釈改憲は絶対に許されない——日本語が信頼性を失う

---

今安倍内閣は、憲法の解釈改憲を行うために、有識者懇談会を開き、有識者懇談会での結論を基に、集団的自衛権があるとの解釈改憲を閣議決定しようとしている。“集団的自衛権”については、歴史的にも“集団的自衛権はない”とする考えが正しいとされてきた。この正しいとされてきた憲法解釈を安倍内閣は変更しようとしているのだ。

安倍内閣が行なおうとしている解釈改憲については、様々な人から意見が出され、解釈改憲ができないことを指摘している。これらの指摘について勿論異論はないが、反対意見としては、これだけで良いかという疑問がある。日本語（語学）の解釈という点での指摘がないということである。

憲法の条文では集団的自衛権を有するとは一言も記述されていない。明白なことは“日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権

の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決手段としては、永久にこれを放棄する。(2)前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。”(9条)である。

この条文を安倍内閣は解釈改憲で有名無実化しようとしている。このような解釈改憲が許されては憲法自体の存在意義はない。憲法の解釈を無理やり(条文変更なし)に行うことが許されるならば、現在まで採用されている法律の解釈(判例)とは異なる解釈が“閣議決定”で可能となる。そうなれば、“法律”はあっても“法律なし”という事態になりかねない。

安倍総理は衆院予算委員会において、「行政府における憲法解釈は、法制局長官が決めることではなく、内閣が責任をもって決める。その最終的責任は私がおっている」と、一見正しいとも思われるような答弁をしているが、とんでもない暴論であり、危険極まりない考えである。非論理性の解釈は内閣であろうとも総理大臣であろうとも、誰でもできないものである。

日本国憲法の前文と9条は、中学卒業程度の日本語力を有するものは誰でも理解できるものである。これを、政治的判断として、解釈で集団的自衛権があるように変えようとしている。解釈によって、どのようにでも変更できるのであれば、強者(武力や経済力等)の都合の良いように解釈されることになる。日本語の信頼性はなくなり、ひいては日本への信頼も失うだろう。

言葉は、弱者・強者に関係なく同じように解釈されて意味がある。つまり、法治国家とは弱者・強に関係なく同じように解釈されて意味がある。法治国家とはこのことが前提になっているのである。

益永八尋

山崎農業研究所幹事

yamazaki@yamazaki-i.org

---

<山崎農業研究所 第148回定例研究会(速報)>

---

日時:2014年4月26日(土)13:30~17:00

場所:東京都千代田区三崎町3-6-15 内海ビル101会議室

テーマ：新たなアフリカ農業・農村開発支援と課題

1. 紛争終了地域のコミュニティ再生と技術支援  
……岩本彰氏（NTC インターナショナル・代表取締役社長）
  2. 農産品振興と輸出—ブルキナファソを事例として  
……高木茂氏（NTC インターナショナル）
  3. アフリカにおける生活改善活動—日本の経験を通じて  
……服部朋子氏（NTC インターナショナル）
- 

■はじめに：テーマとアフリカ開発会議（TICAD）との関わり

……山崎農研事務局長 小泉浩郎氏

1993年以降、日本主導でTICADが5年に1回開催されてきた。TICADでは「強い持続的経済発展とともに包括的に強い社会、平和・安定」を理念とした成長の質的向上を目指す開発、人間中心の開発、貧困の削減を目標としている。

TICADの20年の実績からみると、アフリカ自身の取組みを支援すること、若者への支援、とくに女性権利の確立、雇用、教育の機会の拡大、人間の安全保障の促進などを重要課題にしている。

これらの理念の下での農業開発支援事業に関連して、現地からの青年にアフリカでの農業近代化への意欲、行動など、農業事情を聞く機会があった。このことで昔から持っていたアフリカへの古いイメージが一転した。

今回、アフリカ（ブルキナ・ファソ、セネガル、ケニアなどの農村開発支援事業に携わった技術者、現地の人々の苦勞から現地農民の望む具体的対策の手がかりを見出すことが出来ると思われる。

1. 紛争終了地域のコミュニティ再生と農業開発支援と課題  
……岩本彰氏（NTC インターナショナル・代表取締役社長）

(1) 農業・農村開発協力の変遷

国際協力における農業・農村開発ではODA（政府開発援助による資金サービス）からJICAさらに現在は国際協力銀行に統合されて、そこからの資金でコンサルタント・エンジニアが実践者となって支援事業は進んでいる。この25年は農業生産向上に特化してきた。その結果、社会へ及ぼす弊害、施設維持管理などの問題が生じ、地域社会発展に問題があった。15年前から技術分野では持続

可能な開発をアジア、中南米、中近東、アフリカで行ってきたが、水資源の逼迫、アラル海、湖沼の消滅など自然破壊が進んだ。その結果、住民参加型開発手法が重視されるようになった。7年ほど前から紛争後の平和構築への貢献、稲作技術、生活環境向上が重視される。

アフリカはその一つであり、エジプト、ジンバブエ、ザンビア、アンゴラ、ベナン、ギニア、ウガンダ、コンゴ、ブルンジなどの国々での支援に協力できた。農村道路整備、従来の農業技術だけでなく社会科学の専門技術が求められている。

### (2) 日本がアフリカの開発の協力をする理由

わが国も戦後、ガリオア・エロア資金で支援されてきた。現在の価値で12兆円。世界銀行から6兆円（現在の価値）を受けながら復興した。その恩返しであるほか、人道的支援、資源確保、潜在的市場確保を通して、わが国の国益のために行っている。

### (3) 紛争影響国の復興支援における地方行政強化・

#### コミュニティ開発（ブルンジ共和国の事例）

ブルンジ共和国では、1962年の独立から2006まで、ツチ族とフツ族の民族紛争によって主力産業の農業基盤が荒廃した。このため現在も難民問題、食料・農地不足が深刻である。資源も乏しく高密度人口によって経済基盤も弱体化した。このための支援事業として平和と経済活動の両立を図るために、農業分野を中心とした(a)パイロット事業、(b)行政とコミュニティの活性化支援、(c)生活向上支援に寄与している。プロジェクトには幹線道整備、湿地開発、灌漑、土壌保全、種子配布、農外所得向上、生産物付加価値付与、弱者生活の向上、土地無し農民対策、難民対策等が事業対象となっている。以上のような視点でアフリカの農業・農村開発支援を進めている。

（文責：安富・田口）

---

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.132』発行されました

---

山崎農業研究所所報『耕 No.132』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布（有料：1,000円）いたします。

[yamazaki@yamazaki-i.org](mailto:yamazaki@yamazaki-i.org)

までご連絡ください。

「\*」の記事は、山崎農業研究所のHPから読むことができます。

<http://yamazaki-i.org/>

【土と太陽と】<巻頭言>

里山と子供の成長—地域の”担い手”を育てる場としての価値論◎千賀裕太郎

【第146回定例（現地）研究会】

里山再生と食の安全—放射能汚染と戦う原木しいたけ栽培

研究会の概要\*

報告(1) 風土を活かす—原木しいたけと放射能汚染 ◎飯泉孝司\*

報告(2) 放射能汚染被害からの産地再生の取り組み ◎高橋恭嗣\*

識者からのコメント

(1)里山再生の意義をめぐって ◎塩谷哲夫\*

(2)里山の再生と持続的地域資源循環の回復 ◎熊澤喜久雄\*

【特別寄稿】

落ち葉を通じた福島原発事故後の

里山林生態系への放射線影響 ◎大久保達弘\*

【特集】養生の時代

3.11 福島原発事故後の『養生法』とはなにか ◎今村光臣\*

腐植前駆物質で土と体を守る ◎高味充日見\*

元気な身体は、生ごみリサイクル元気野菜作りから ◎吉田俊道\*

【連載】“生きもの語り”の世界から(4) ◎宇根 豊

---

<巻頭言> 情理を兼ね備えた日本語

——関西電力大飯原発運転差し止め請求訴訟・福井地裁判決に思う

---

関西電力大飯原発の運転差し止め請求訴訟の福井地裁判決が出た。

判決要旨については <http://www.news-pj.net/diary/1001> などで読むことができる。

運転差し止め請求を認めるという判決内容はもちろん画期的なのだが、判決要旨を読むと、その論理構成と言葉の格調の高さに感嘆させられる。

いちばん心うたれたのは以下の箇所である。

「当裁判所は、極めて多数の人の生存そのものに関わる権利と電気代の高い低

いの問題等とを並べて論じるような議論に加わったり、その議論の可否を判断すること自体、法的には許されないことであると考えている。」

「本件原発の運転停止によって多額の貿易赤字が出るとしても、これを国富の流出や喪失というべきではなく、豊かな国土とそこに国民が根を下ろして生活していることが国富であり、これを取り戻すことができなくなることが国富の喪失であると当裁判所は考えている。」

久しぶりに日本語らしい日本語、もっと言えば情理を兼ね備えた日本語にふれることができうれしく思ったのはわたしだけではあるまい。一部政治家の聞くに耐えない日本語とは大違いだ。

言葉の質は、その言葉とセットになっている現実とどう向き合うかで決まるのではないか。原発問題についていえば、福島の実現を素直に受け止められるかどうかで、言葉は天と地ほど変わってしまう。そんなことを強く考えさせられた判決であった。

2014年05月23日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

---

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売  
『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』  
(発売：2008/11 定価：1,575円)

[http://shop.ruralnet.or.jp/b\\_no=01\\_4540082955/](http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/)

たくさんのお書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

---

◎辻信一さん(文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授)  
グローバルの次は何? ~卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん(大地を守る会)

ブログ: 大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん(長野県農業大学校教授、執筆者)

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

[http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry\\_id=1822182](http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182)

◎関良基さん（拓殖大学政経学部）

ブログ：代替案 書評：『自給再考ーグローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん（イラストレーター・ライター）

ブログ：神流アトリエ日記（3）「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺れたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

（2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優）

<http://yamazaki-i.org/>

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

◎小谷敏さん（大妻女子大学）

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ（2009/01/31）

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん（(株) 共に生きるために）

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

◎塩見直紀さん（半農半X 研究所、執筆者）

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

---

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

---

- 1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
- 2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
- 3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。

5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

-----  
次回 368 号の締め切りは 06 月 02 日、発行は 06 月 05 日の予定です。

---

<本誌記事の無断転載を禁じます>

\*\*\*\*\*

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 367 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2014.05.23（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

\*\*\*\*\* ここまで『電子耕』 \*\*\*\*\*